

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業 中間評価結果

整理番号	1	大学名	東京工業大学
事業名	Technology Creatives Program (通称テックリ)		

**(評価決定後公表)**

**【総括評価】**

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

**【コメント】**

**<優れている点>**

- ・主幹校の東京工業大学を中心にコンソーシアム大学間で密なコミュニケーションを取り、テック×アート×ビジネスそれぞれの特徴・役割分担を活かしたカリキュラム構築が着実に進んでいる。各専門分野の専門家の研究知見等がしっかり入った大学ならではの学習プログラムとなっている。
- ・交流型の活動拠点が整備され、社会人は大学院生や学部生達の熱量を感じ、学生達は社会人の学ぶ姿、経験知等を得るよい場が提供されている。
- ・最終発表祭に向けて、チーム制で具体的なアウトプット（ビジネス）を求めるプログラムは、職種や年齢を越えた「同期・仲間」を形成し、学習者のモチベーションマネジメントにも有意に機能している。
- ・トレーナー制度、コミュニティ、アルムナイ制度は、修了後の学びの継続や深化にとって重要であり、プログラムの持続性に大きな貢献をしている。

**<改善を要する点>**

- ・受講生に「気づき」を促す（自己生成スタイル）のプログラムであることは良いが、そのタイミングのデザインは、教員側の暗黙知あるいは受講者依存が強い。全ては難しいかもしれないが、カリキュラムや教授法として形式知化、システム化を試みていただきたい。また、リーダーシップの創出、オーナーシップ（自分事化）においても、プログラムが「機会提供」「場」として機能しているが、プログラム内においてより強く意識させる仕組み等を考えていただきたい。
- ・受講者の気づきを小まめに記録・可視化し、問題や課題の構造化から分析へと繋げていただきたい。例えば講師が観察するだけでなく、作業風景の録画データ等を分析する、文章ストックされた気づき（アンケート等）等のテキスト・マイニングをするなど、未利用資源を活用し、FD（ファカルティ・デベロップメント）研修の実施、トレーナーの育成・レベルアップへと繋げていただきたい。
- ・ビジネスモデルの見直しを進めて頂きたい。現状のプログラム内容には相当の価値があるが、持続的に提供する（≡自走化・自己収入での運営する）という観点においては提供価格等との釣り合いが取れていない。
- ・2期受講生の減少要因の一つを価格アップとしていたが、プログラムのブランド力不足もあり、期待価値を高めていただきたい。また個人受講者向けには厚労省制度等の活用などの負担軽減策も検討いただきたい。